

自動運転を核とした 地域密着型のモビリティネットワーク構築の実証実験構想

～ 桐生市の公道で、複数の種類の自動運転車両（バス/通勤用/パーソナルモビリティ）を同時に用いた市民乗車体験の実証実験をおこないます【2019年5月25日・26日予定】～

株式会社ミツバ及びミツバグループ（代表取締役社長：長瀬裕一、以下「ミツバ」）、国立大学法人群馬大学（学長：平塚浩士、以下「群馬大学」）、桐生市（市長：亀山豊文）は、桐生市における地域の移動課題の解決に向けたモビリティネットワーク構築のための社会実装研究に三者で取り組む一環として、2019年5月25日及び26日の2日間、複数の種類の自動運転車両を同時に用いた公道実証実験を行う計画について発表します。

実証実験の目的

本実証実験は、人口減少・超高齢社会のまちづくりに寄与できる持続可能なモビリティネットワークを構築し、同時に多様な移動サービスの利用・提供の事業モデル創出を目指し、桐生の産学官が主体的に独自に取り組むもので、以下を目的として実施します。

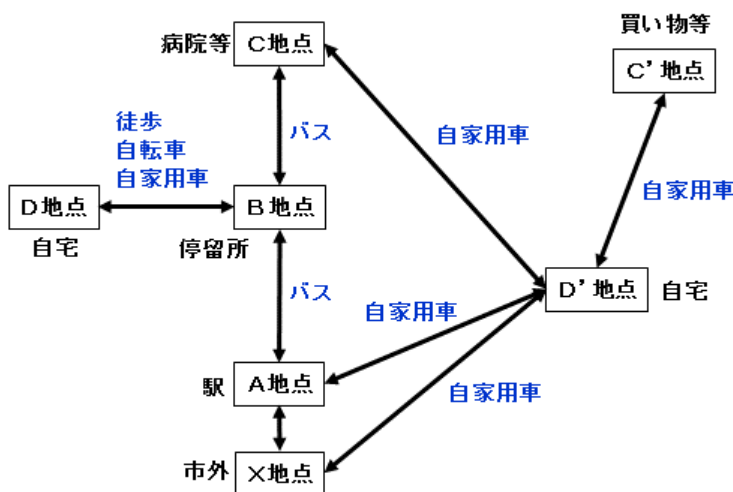
- 地域の暮らしに合った移動手段や移動スタイルを把握する。
- 自家用車以外の多様な移動手段に対するニーズを収集する。
- 多様な移動手段のサービスイメージの検証・開発に取り組む。



地方都市における移動に関する課題の現状

- ・ 自家用車中心で、目的地まで直接自家用車で行った方が便利
[100m未満の移動でも4人に1人は自動車を利用する過度な自動車依存]
- ・ 高齢により免許を返納したり、家族の協力が得られなくなると移動が困難になる
[マイカーが使えない高齢者で低い外出率]
- ・ 公共交通機関の利点を活かしてきれていない [バスの利用割合はわずか0.3%]

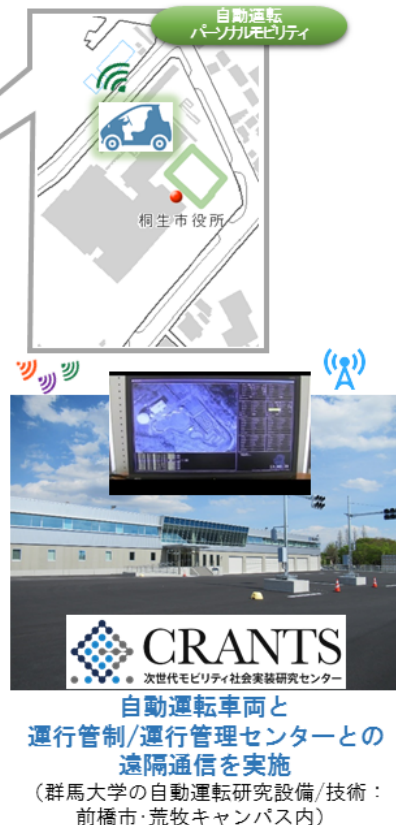
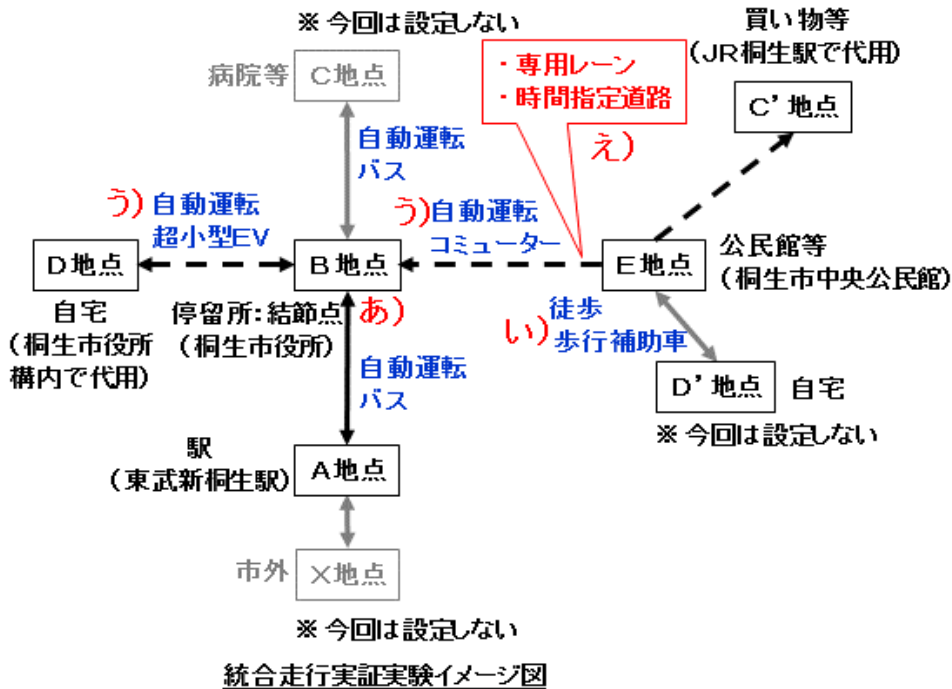
*括弧内:「群馬県交通まちづくり戦略
(平成30年3月 群馬県)」
から一部引用



地方都市における移動の現状イメージ図




実証実験（今後の地方都市をイメージした仮想実験）

- 商店や病院など生活に必要な場所と、駅など市外への移動が可能な場所を自動運転バスで基幹交通としてつなぎ、結節点となる停留所を設置 **あ)**
- 自宅から近い場所（公民館等の公共施設の活用）までは徒歩若しくは歩行補助車で移動 **い)**
- 自宅や自宅から近い場所と、停留所の間は、新しい移動体による移動となる **う)**
- 既存交通機関と共存するために専用レーン、若しくは時間指定専用道路を設定 **え)**



実証実験の概要

1. 走行日時（予定）：2019年5月25日（土）26日（日）
2. 走行車両・走行ルート・試乗者：次のとおり

<p>自動運転バス 1台</p> <p>日野ポンチョをベースにした実験車両 桐生市役所 ↑↓ 新桐生駅（東武鉄道 桐生線） 【走行1回当たり 3.6 km】</p> 	<p>自動運転通勤用車 1台</p> <p>トヨタアルファードをベースにした実験車両 桐生市役所 ↑↓ 桐生駅（JR 東日本 両毛線） 【走行1回当たり 1.6 km】</p> 	<p>自動運転パーソナルモビリティ 1台</p> <p>トヨタコムスをベースにした実験車両 桐生市役所駐車場 （実験走行専用域）</p> 
<p>市民モニター試乗実施（事前登録制）</p>	<p>市民モニター試乗実施（事前登録制）</p>	<p>市民モニター試乗なし</p>
<p>桐生市役所を結節点の停留所と仮想して上記の各公道走行実験を同日に実施することで、次の移動手段へのシームレスな乗り換えがイメージできるよう、市内広範囲の統合走行実証実験として行います</p>		

安全確保措置の概要

本実証実験は、警察庁が定める「自動走行システムに関する公道実証実験のためのガイドライン」（平成28年5月）に則り実施します。実験車両として用いる自動運転バス/自動運転通勤用車/自動運転パーソナルモビリティの自動運転車は、運転者による手動運転操作が最優先されるように自動運転システムの設計がされており、一般的な自動車と同様の安全性が確保されています。自動運転車は、実験車両の種類に応じた運転免許を保有し、自動運転システムを十分に理解した運転者（テストドライバー）が運転手席に必ず搭乗し、走行中、常に周囲の道路交通状況や車両の状態を監視（モニター）し、緊急時等に直ちに必要的操作を行うことができます。テストドライバーは、実証実験の実施主体の構成員が担当します。なお、万一の事故の際の対応や自動運転システムの安全性向上を目的に、ドライブレコーダー（車内カメラを含む）を設置します。

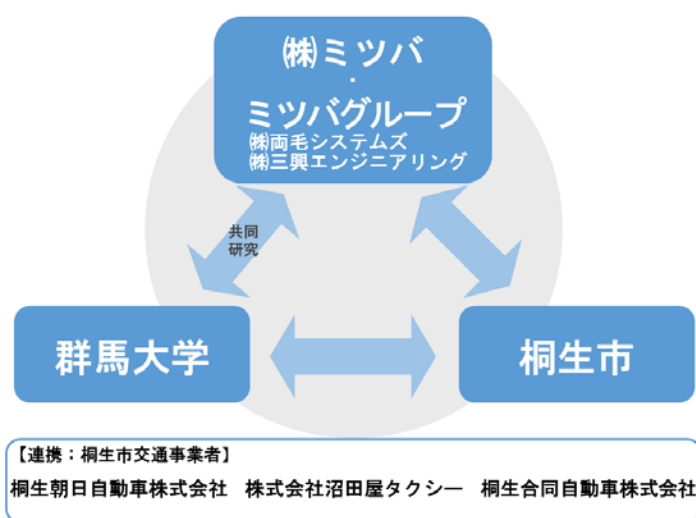
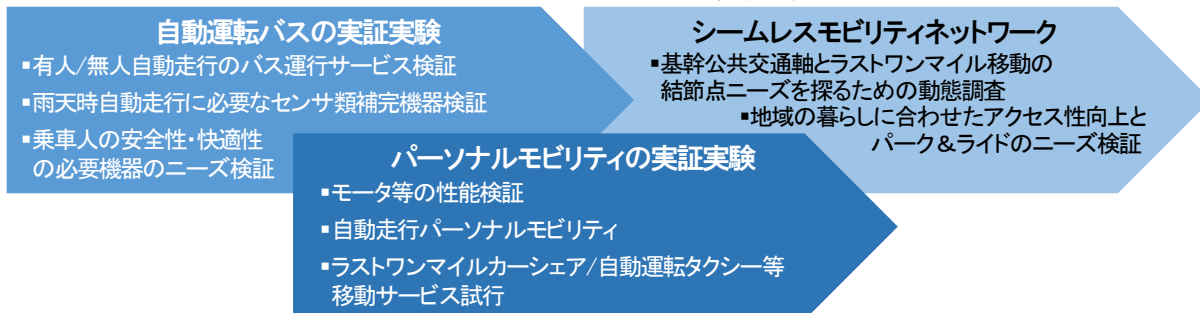
実施までの準備スケジュール

- | | | |
|--------------------|---|----------------------|
| 2018年 12月～2019年 4月 | ： | 車両準備、予備実験 |
| 2019年 4月 | ： | 市民参加者募集要領発表（桐生市広報紙等） |
| 5月25日・26日 | ： | 実証実験実施 |
| 8月頃 | ： | 実証実験結果公表 |

実施主体と今後の展開

ミツバ、群馬大学、桐生市が産学官連携で取り組む地域密着型プロジェクト

モビリティネットワーク社会実装研究



	連携・役割
(株)ミツバ ・ ミツバグループ (株)両毛システムズ (株)三興エンジニアリング	本実験の実施主体 電動モビリティ/パーソナルモビリティの提供及び新価値商品の実証実験の実施、移動サービス事業のニーズ収集・開発等
群馬大学 次世代モビリティ 社会実装研究センター	自動運転システム実証実験パッケージの提供及び実証実験の実施、その他関連する自動運転実証実験事業等
桐生市	実験フィールドの提供、地域住民・公共機関等との調整、情報発信等

ミツバ及びミツバグループは、CASEに代表される自動車の進化に加え、桐生市をはじめとする地域社会における移動困難者への移動手段や町づくりを課題と捉え、自動運転研究車両群及び次世代モビリティネットワーク技術群を応用した、安全・安心・快適な移動手段に対するデータ収集とデバイスの提供を同研究の中で進め、同様の環境にある地域社会へ普及を図っていくことを考えています。

群馬大学は、次世代自動車産業振興に資する産学官連携イノベーションの拠点形成をめざし、2016年12月に「次世代モビリティ社会実装研究センター」を設置し、関連分野の企業や自治体との連携・協力関係のもとに、地域社会に根付く自動運転による移動サービスの創出に向けた研究と社会実装をめざした活動を進めています。限定された地域専用の自動運転研究開発に取り組み、実証実験の実績を蓄積していきながら、2020年に、技術的にも社会的にも自動運転に対応していく社会の実現、完全自動運転/無人自動運転移動サービス(レベル4)をはじめとする次世代モビリティの社会実装をめざします。

桐生市は、かねてより群馬大学との連携推進に取り組んでおり、群馬大学による自動運転研究の公道実証実験に対しても、2016年の開始当初から協力してきました。地域経済を牽引する株式会社ミツバ及びミツバグループと群馬大学の連携により、人口減少・超高齢化社会における地域の交通課題解決に向けた次世代モビリティネットワークの共同研究が、桐生市を舞台に実施されるのは歓迎すべきことです。次世代モビリティ分野における群馬大学や桐生地域の優位性を高め、地域活性化や地域経済循環につなげることを目指して、桐生市は本研究へ参画し、実証実験に必要なサポートを行ってまいります。

本件に関するお問い合わせ先			
株式会社ミツバ	総務部総務課広報グループ	安達	TEL 0277-52-0187
国立大学法人 群馬大学	研究・産学連携推進機構 次世代モビリティ社会実装研究センター	宇野・石坂	TEL 027-220-7443
桐生市	総合政策部企画課大学連携推進担当	金子	TEL 0277-46-1111 内線 577